

Citation: Ooi CP, Loke SC. Sweet potato for type 2 diabetes mellitus. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2012, Issue 2. Art. No.: CD009128. DOI: 10.1002/14651858.CD009128.pub2.

CRG名: Cochrane Metabolic and Endocrine Disorders Group

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 20 JUL 2011

Clib issue No.: N/U: 2012 Issue 2; N

**背景:** サツマイモ(学名: Ipomoea batatas)は最も栄養価の高い亜熱帯および熱帯植物の一つである。2型糖尿病に対する伝統的医療にも使用されている。動物およびヒトのモデルでの研究は、サツマイモが血糖コントロールにおいて役割を果たしている可能性のあることを示唆している。

**目的:** サツマイモの2型糖尿病に対する効果を評価する

**検索戦略:** コクラン・ライブラリ(2011年第7号)、MEDLINE、EMBASE、CINAHL、SIGLEおよびLILACS(全て2011年7月まで)など複数の電子データベースを、ハンドサーチと組み合わせて検索した。言語制限は用いなかった。

**選択基準:** サツマイモをプラセボと比較、または薬理的または非薬理的介入の有無を問わないコントロール介入と比較したランダム化比較試験(RCT)を選択した。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自に試験を選択し、データを抽出した。バイアスのリスクを、ランダム化、割りつけの隠蔽化(コンシールメント)、盲検化、アウトカムデータの完全性、選択的報告、およびその他潜在的なバイアス源といった項目を用いて評価した。

**主な結果:** 3件のランダム化比較試験(RCT)が選択基準を満たした: これらの試験では合計で140例の参加者について、6週間から5か月間にわたり調べている。これらの研究には同一の著者が寄与していた。概して、これらの試験のバイアスのリスクは不明か、あるいは高かった。いずれのRCTも、2型糖尿病の血糖コントロールに対するサツマイモ調整品の効果をプラセボと比較している。1日あたり4gのサツマイモ調製品に伴い、3~5ヶ月後に、糖化ヘモグロビンA1c(HbA1c)にプラセボと比較して統計学的に有意な改善が認められた(平均差異(MD)-0.3%(95%CI-0.6~-0.04)、P=0.02; 参加者122例、試験2件)。重篤な有害作用は報告されなかった。糖尿病合併症および罹病率、全死因死亡、健康関連QOL、福祉、機能的アウトカムおよび費用は調査されなかった。

**レビューアの結論:** 2型糖尿病に対してサツマイモを推奨するにはエビデンスが不十分である。試験方法の改善に加え、サツマイモの他の種類の調製品の標準化や品質コントロールといった問題への対処が必要である。医学的栄養療法として、臨床診療におけるなんらかの推奨を導くためには、サツマイモの効果を評価するさらなる観察試験やRCTが必要である。

(監訳 相原 守夫)

翻訳公開日: 2012年6月19日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。